

Vol. 18

〈発行日〉
令和2年1月1日

松下ゆきよし

県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605

前田洋一園長（左から2人目）と、
モルモット担当の二人の飼育員さん（両端）



干支送りに登場した
モルモットの「タム」（左）と「がんも」（右） 提供：とべ動物園

駆けつけてくれた
「いのとん」（左）と
「しこちゅ〜」（右）

新年おめでとぅございませす

旧年中は、格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

今年の干支は、子ねずみ。正確には庚子かのえね。庚子の年は、今までにまいた種が実を結ぶ縁起の良い年と云われています。そして、今年最大のイベントが東京オリンピック・パラリンピックです。昨年のラグビーワールドカップや、野球の国際大会「第2回プレミア12」の勢いをそのままに、日本中が盛り上がることでしょう。その東京オリンピック・パラリンピックの後、今年9月に愛媛県で日本スポーツマスタースが開催されます。大会期間中には、選手や監督、関連イベントの参加者など関係者約1万5千人が県内に集まり、応援の方々も愛媛を訪れます。心のこもったおもてなしで迎えたいものです。

写真は、昨年12月28日とべ動物園恒例の干支送りで撮った二枚です。亥いのししと子の干支にちなんで、ネズミの二種モルモットと、東温市のイメージキャラクター「いのとん」、四国中央市のキャラクター「しこちゅ〜」が駆けつけてくれて賑わっていました。

人古く 年新しく めでたけれ

山口青柳せいりゅう

令和元年9月定例会県議会

9月13日から10月8日までの26日間の会期で開催された9月定例会県議会(第365回)では、一般会計補正予算など26件を原案可決しました。可決議案は、条例11、補正予算3、人事4、意見書2、その他6です。そのほかに財政健全化法に基づく平成30年度県財政の健全化判断比率など6件の報告がありました。なお、平成30年度決算の認定は継続審査となっています。主なものは次のとおりです。

また、焦点となっていた松山東警察署の誤認逮捕(注1)について、県警からスポーツ文教委に内部調査結果の報告があり、再発防止に向けて委員から厳しい意見がありました。

1 条例

令和2年4月から始まる会計年度任用職員制度(注2)に備えた関係条例の改正、同制度職員の給与に関する条例、愛媛県子ども子育て応援基金設置条例など11条例の上程があり、原案どおり可決しました。

2 補正予算

一般会計80億5,796万円、中小企業振興資金特別会計21億3,000万円、電気事業会計(債務負担行為3億7,140万円)の増額予算です。概要は、表1のとおりです。なお、西日本豪雨災害への対応予算は、既に昨年度952億円、本年度240億円、計1,192億円が予算化されています。

▼「子ども子育て応援基金」の創設
6,335万円

官民共同で子ども子育て世帯を支援する基金です。本年1月に匿名で届いた寄附金1億6,611万円の半分を充てています。なお、新たに「子どもの愛顔応援ファンド」が設置されましたが、ファンドは資金面の支援をする子ども子育て応援基金と合わせ、物資やボランティアなど物的、人的支援の提供を含めた総称です。

▼伊予鉄道の低床式路面電車
導入支援 5,000万円

松山市内を走る伊予鉄道の路面電車は38両(坊ちゃん電車を除く)、

内14両が低床式電車です。14両の中で、次世代型と呼ばれている流線形(写真)の低床車は4両です。今回このタイプをさらに2両増やします。1両当たりの価格は約2億円。補助金は、国1/2、県1/8、松山市1/8。

▼総務系事務の集約化等による働き方改革の推進 2,003万円
本庁の約70課室で、それぞれの担当職員が担っている総務系事務136のうち年末調整や臨時職員の給与計算など27事務を「総務事務オフィス(仮称)」に集約。計算や書類

の確認などを民間業者に委託します。同オフィスは、本庁内に設置する予定です。

3 人事

総務省出身で県政推進統括部長の八矢拓氏(42歳)を副知事に充てる人事案件などがあり、全て同意しました。なお、砥部町在住の公安委員渡部智磨子氏(元小学校長、66歳)も、再任されました。

4 意見書

防災・減災対策や私学助成の充実強化を求める意見書を、国に提出することとしました。

(注1) 2019年1月、松山市でタクシートの車内から売上金などが盗まれた事件で、松山東警察署が愛媛大学の女子大学生を誤って逮捕していた事件

(注2) 地方自治体で働く非正規公務員の新しい制度。令和2年4月から始まります。あいまいだった採用根拠を整理し、従来の非正規職員にはなかった期末手当の支給や人事評価の導入、昇給などが追加されます。非常勤職員や臨時職員などのほとんどが、新設された「会計年度任用職員」に移行することになります。



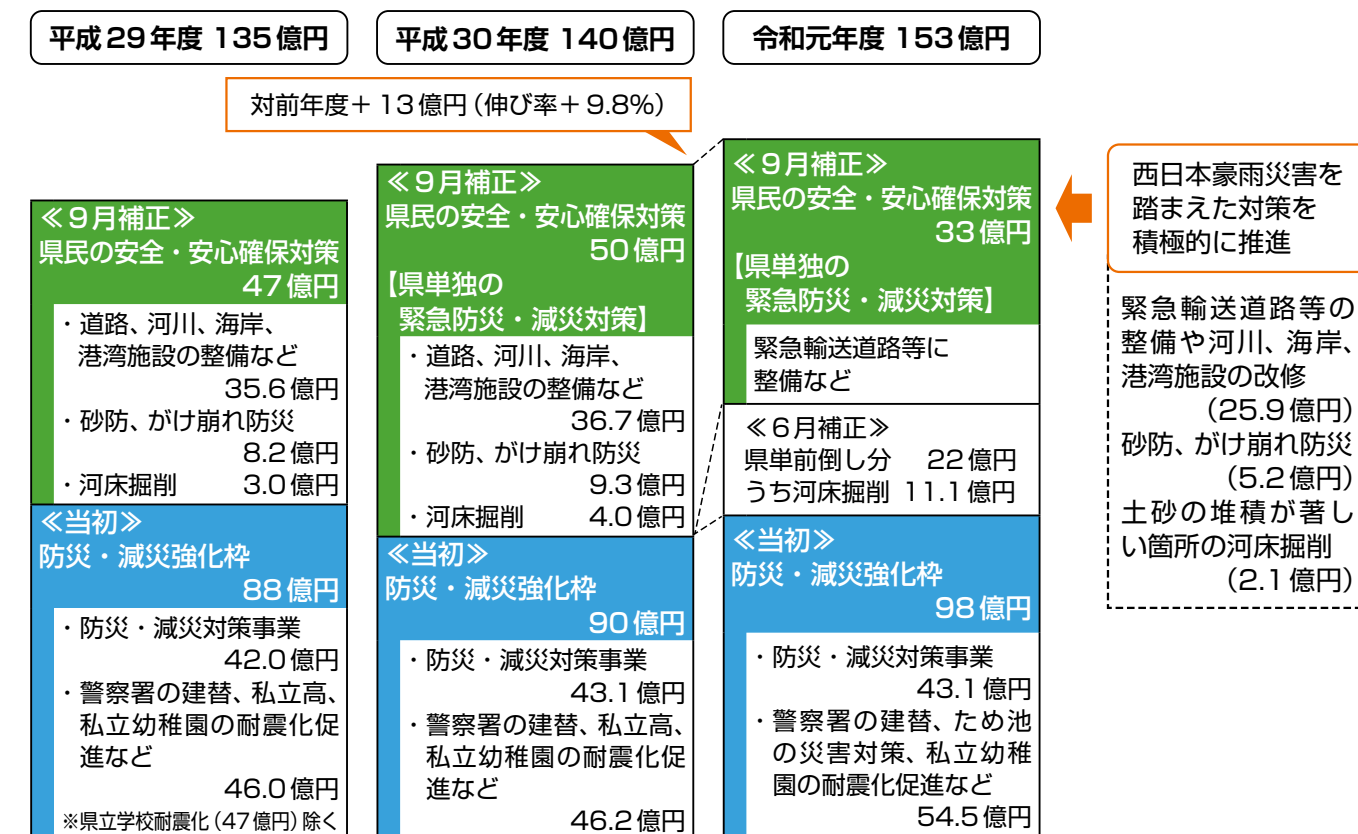
松山市内を走っている流線形の低床電車

(表1) 9月補正予算の概要

1 西日本豪雨災害への対応	3,853万円
(債務負担行為：電気事業会計)	3億7,140万円)
(1) 被災地の復旧・復興	3,853万円
◎ ① 被災園地の復興に向けた生産技術の開発	648万円
◎ ② 寄附金を活用した被災児童等の交流促進	210万円
◎ ③ 鹿野川湖ポートコースの災害復旧	2,995万円
◎ ④ 肱川発電所の建屋建替(企業会計)	(債務負担行為 3億7,140万円)
2 県民の安全・安心確保対策の推進	33億1,600万円
(1) 県単独緊急防災・減災対策事業	33億1,600万円
緊急輸送道路等の整備 20億1,400万円 など	
3 当面する課題への対応	47億343万円
(中小企業振興資金特別会計)	21億300万円)
(1) 子育て支援等の充実	7,404万円
◎ ① 「子ども子育て応援基金」の創設(※)	6,335万円
◎ ② 外国人介護人材の受入拡大と定着促進を図るためのマッチング支援	1,069万円
(2) スポーツ立県えひめの推進	1,249万円
(3) 観光の振興	9,647万円
◎ ① 伊予鉄道の低床式路面電車導入支援 5,000万円(※) など	
(4) 商工業・農林水産業の振興	20億1,576万円
◎ ① 腎疾患対応低タンパク米の産技術の開発や販売戦略の策定	893万円
◎ ② 中小企業者の資金繰り支援(融資枠50億円拡大) 20億円 など	
(5) その他	2,248万円
【特別会計 21億300万円】	
◎ ① 総務系事務の集約化等による働き方改革の推進(※)	2,003万円
◎ ② 公立学校教員の人材確保に向けた採用ウェブサイトの構築	245万円
◎ ③ 農商工連携ファンドの存続期間満了に伴う償還金	《中小企業振興資金特別会計》21億300万円

◎は、新規施策分 (※)は、本文中で内容を説明しています。

(表2) 県独自の緊急防災・減災対策の推移(9月補正時点)



愛媛県議会定例会 (令和元年12月)の概要



12月議会、議長席の横に飾られた紅マドンナ。

12月定例会県議会(第366回)は11月25日から12月11日までの17日間の会期で開催され、24議案を原案可決しました。可決議案は、条例7、補正予算4、人事3、意見書1、その他9。そのほかに交通事故の損害賠償額の決定など専決処分報告3件がありました。

1 条例

条例7件のうち主なものは、次のとおりです。

▼県職員の給与に関する条例など関係条例の一部を改正
人事委員会勧告に基づく改正です。

▼県森林環境税条例の一部を改正
適用期間を5年間(2025年3

月末まで)延長しました。森林環境税は、年額700円で県民税均等割りに上乗せして納めていただきます。

▼自転車の安全な利用の促進に関する条例の一部を改正
自転車利用者の自転車損害保険への加入を義務化しました。

2 補正予算

補正予算は、一般会計6億8,534万円、企業会計(3会計合わせて)9,032万円の増額予算です。人事委員会勧告に基づく職員と特別職の給与改定が6億7,302万円。アコヤガイ大量へい死、豚コレラ対策などに1億264万円となっています。

3 人事

県土地収用委員会委員2名と、同予備委員1名の選任に同意しました。

4 意見書

「労働者協同組合法」の早期制定

を求める意見書を可決、「桜を見る会」疑惑に関する真相解明を求める意見書は否決しました。

5 その他

土木建設事業の地元負担額の変更、建設工事の契約額の変更のほか、2020年度の当せん金付証券(宝くじ)の発売限度額(127億7,500万円)の決定。また、継続審査となっていた平成30年度決算4件を認定しました。

(表3) 12月補正予算 給与改定経費

1 一般職 6億 6,982 万円
(一般会計 5億 7,956 万円、企業会計 9,026 万円)

区分	職員数	予算額
一般会計	1万 8,863 人	5億 7,956 万円
一般職員	4,178 人	1億 1,902 万円
警察職員	2,874 人	9,368 万円
学校職員	1万 1,811 人	3億 6,686 万円
企業会計	2,063 人	9,026 万円

2 特別職 320 万円
(一般会計 314 万円、企業会計 6 万円)

(表4) 12月補正予算 主な事業

1 当面措置を必要とする経費	1億 264 万円
(1) アコヤガイ大量へい死への緊急対応 〔利子補給の債務負担行為 1,138 万円〕	850 万円
(2) CSF(豚コレラ)ウイルス等の防疫対策の強化 野生イノシシ・野鳥侵入防止柵等の設置、車両消毒など支援	9,132 万円
(3) 東京オリンピックに向けた台湾女子サッカーチームの事前合宿の受入れ	282 万円
2 給与改定	6億 7,302 万円
	計7億 7,566 万円



9月6日 窯業技術センターの開所を祝うテープカット(左から佐川砥部町長、中村知事、西田県議会議長)



10月19日 香川県の瀬戸内芸術祭を見学。小豆島土庄港にあるチェ・ジョファ(韓国の現代アーティスト)さんの作品「太陽の贈り物」の前で。



12月20日 地域公共交通活性化協議連で、予土線を視察。四万十市の江川崎駅から鉄道ホビートレインに乗り、宇和島市に向かいました。



12月16日 韓国のチェジュ航空本社を表敬訪問。イ・ソクジュ社長(右)と。愛媛は、訪日韓国人の好感度ナンバー1とのことでした。



みきゃん扮する「愛媛県まじめ課長」と。(昨年秋のえひめ・まつやま産業まつり会場)

ます。「まじめ」は、見方を変えるところちょっと堅物、融通が利かないともとれる訳で、普段まじめな人間がチャリと見せるユーモアは格別なものがあります。この企画は、そういった笑いと微笑ましい姿を狙っているように思うのですが、皆さんはどのように思いますか。

うです。ちなみに2015(平成27)年に「姓・名の順とすることが望ましい」と通知を出しています。ただ、今までの慣行もありなかなか浸透しないようです。

論いろいろな意見が寄せられています。「まじめ」は、見方を変えるところちょっと堅物、融通が利かないともとれる訳で、普段まじめな人間がチャリと見せるユーモアは格別なものがあります。この企画は、そういった笑いと微笑ましい姿を狙っているように思うのですが、皆さんはどのように思いますか。

日感 日雑

▼名前をローマ字で書くとき「姓」と「名」どちらを先に書きますか。名前が先の人が多いのではないのでしょうか。昨年5月頃の話ですが、文科科学、外務両省が日本人名のローマ字表記について「姓・名」順を推奨することと決定しています。外務大臣が海外の報道機関に「姓・名」表記を求め、文化庁も各方面に通知を出したそうです。「名・姓」の表記は明治の初め、鹿鳴館の頃に始まったようで、今に残るのは欧化政策のなごりでしょうか。実は、文化庁は2000(平成12)年に「姓・名の順とすることが望ましい」と通知を出しています。ただ、今までの慣行もありなかなか浸透しないようです。

▼愛媛県は、昨年4月に統一コソセプト「まじめえひめ」を打ち出しました。県民性を「まじめ」と位置付けて、愛媛の魅力国内外に情報発信していく企画です。県庁内に「まじめ課」を新設、動画制作やイベントなど次々と展開してきました。その中で、4月に公開された動画「愛媛県まじめ会議」が、年末になって波紋を呼びました。動画の中で、「介護・看護時間の長さが全国一」「独身女性の多さ一位」といった表現に対して、全国フェミニニスト議員連盟から抗議があり、12月県議会の一般質問に取り上げられて、賛否両論いろいろ意見が寄せられています。「まじめ」は、見方を変えるところちょっと堅物、融通が利かないともとれる訳で、普段まじめな人間がチャリと見せるユーモアは格別なものがあります。この企画は、そういった笑いと微笑ましい姿を狙っているように思うのですが、皆さんはどのように思いますか。

▼名前をローマ字で書くとき「姓」と「名」どちらを先に書きますか。名前が先の人が多いのではないのでしょうか。昨年5月頃の話ですが、文科科学、外務両省が日本人名のローマ字表記について「姓・名」順を推奨することと決定しています。外務大臣が海外の報道機関に「姓・名」表記を求め、文化庁も各方面に通知を出したそうです。「名・姓」の表記は明治の初め、鹿鳴館の頃に始まったようで、今に残るのは欧化政策のなごりでしょうか。実は、文化庁は2000(平成12)年に「姓・名の順とすることが望ましい」と通知を出しています。ただ、今までの慣行もありなかなか浸透しないようです。

私の本棚

晴走雨読

せいそううどく

『あの戦争から遠く離れて —私につながる歴史をたどる旅』

著者：城戸 久枝 出版：株式会社情報センター出版局



この本はノンフィクション作家の城戸久枝（愛媛県生まれ。本書を出版した当時は伊予市在住）さんが、中国残留孤児だった父城戸幹さんの体験をベースに、自身から祖父まで三代にわたる家族の歴史を追ったノンフィクションです。

内容は、二部構成となっています。第一部は、日本で結婚して著者をさすかる前の父の姿、著者の父城戸幹ではなく「孫玉福」の名前で異郷を生きぬいた父の姿を追っています。「孫玉福」は、「中国残留孤児」という言葉もまだなく、政府の支援もなかった時代に、中国の片田舎から日本の赤十字社に手紙を出し続け、紆余曲折のすえ、日本への帰国を果たします。当時は、日中国交正常化の前で、文化大革命（注3）の真っただ中です。

第二部は、著者が留学生となって中国にわたり、

「父が私の父になる前の人生」を現地での実体験と調査によってひとつずつ浮かびあがらせ、同時に帰国後の父城戸幹が直面しなければならなかった日本での困難な再出発をも追体験していきます。そこに満州国軍（注4）の将校だった祖父城戸弥三郎（愛媛県八幡浜市出身。1981年没）、中国から

すれば「凶悪な」大日本帝国軍人にほかならなかつた祖父の人生が付け加えられます。祖父から父親そして私と続く歴史へと作品の奥行きが広がっていきます。

本書は2007（平成19）年に刊行され、翌年第39回大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクション賞を受賞。また、2009（平21）年にはNHKから、土曜ドラマ「遙かなる絆」のタイトルで放送されています。

（注3）1966年から1976年の間、中華人民共和国内で起こった毛沢東主導による革命運動。1976年に毛沢東が死去し翌年終結宣言がなされました。文革による死者数は諸説ありますが、40万人から1千万人、また、それ以上とも言われ、1億人近くが何らかの損害を被り、国内の大混乱と経済の深刻な停滞をもたらしました。

（注4）1932年創設。1945年解体。「満洲国内の治安維持」「国境周辺・河川の警備」を主任務としていました。軍隊というより関東軍の後方支援部隊、警察軍や国境警備隊としての性格が強かったようです。



愛媛県議会議員

松下行吉

まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口135
 TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606
 Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>